

横尾
森山
石井
堀

じゃないもの

客入れ
舞台上、何もない空間

照明 暗転

1

♫. e. 蝉の鳴き声等、盛夏を感じさせる音
どんどん大きくなる
うるさいくらい多くなり突然止まる

照明、一気に明るくなる (B3)

横尾、舞台後方から登場

舞台中央くらいに到達しそうな時点で、客席側、舞台後方から、横尾を囲むように、石井等が登場

客席側 (石井、山田)、舞台後方 (堀、常本)

横尾を中心に舞台中央に、5人が立つ

四方から照明が当たる

横尾、自らを囲んだ男たちを見回してから

横尾 なんですか。

石井、警察手帳を見せる

石井 警察です。

横尾 ∴

石井 横尾祐司さんですね。

横尾 ∴はい。

石井、逮捕状を取り出し、横尾に見せながら

1

石井 ……の殺人容疑で逮捕する
※適当に、5人の名前を言う(男3人、女2人)

横尾、再び、自らを囲んだ男たちを見回す、同時に表情が変化し、いきなり、笑いだす。

照明、ゆつくりと暗転
横尾の笑い声が残っている
音楽

2

舞台上、椅子と机が2脚
上手側の椅子に森山が座っている

照明、うつすらと
音楽、F.O.

森山、万年筆のような、ペン先の硬い筆記用具で、神経質な音を響かせて、何かを書いている

2

横尾、登場。登場して、そのまま立ち止まる
森山、横尾に気づく

森山 こちらにどうぞ。
横尾 ∴

森山、まっすぐに人の目を見るのが苦手な様子
横尾、ゆつくりと、促された下手側の椅子に座る

森山 横尾、祐司さんですね。
横尾 はい。
森山 初めまして、森山と言います。
精神科の、医者です。

横尾 ∴
森山 裁判長の命令で、あなたの精神鑑定をすることになりました。
よろしく願います。

横尾 ∴
森山 ∴

森山、すつと顔をあげ、横尾の顔が目に入り、止まる。
照明、二人の狙い
そして、しばらく、見つめ合う

横尾 先生。

森山 ……あ、すみません。

横尾 どうかしましたか。

森山 いえ。
すみません。

横尾 ……いえ。

森山 あの、気楽になさってください。
これは、取り調べとは違いますから。

横尾 ……はい。

森山 ……

横尾 ……

森山 それじゃあ、
横尾さんのことを教えてください。
何でも構いません。
横尾さんのことを、私に話してくれませんか。

横尾 ……

森山 子供の頃から順に。
あ、別に順番通りじゃなくても構わないです。
思い出した順で。

横尾 先生。どんな子供時代だったか、ご両親とはどんな感じだったか、どんな学生時代だったのか、

森山 ……なんですか。

横尾 ……

森山 ……
横尾 先生は狂ってるんですか。

森山 どうしてですか。

横尾 昔、聞いたことがあるんです。
精神科の医者は狂ってるって。

森山 ……

横尾 先生はどうなんですか。

森山 自分で、そう思ったことはありません。

横尾 ……

森山 ちなみに、精神疾患を持っていることと、狂っているということが一緒だという認識も、
ありません。

横尾 先生は、どうして精神科医になったんですか。

森山 ……

横尾さん、私に興味を持ってくれるのは、嬉しいんですが、…
今は、横尾さんのことを、私に話してもらえませんか。

横尾 …

森山 横尾さんのことを、私は知りたいんです。

少しずつでも良いので、横尾さんのことを、私に教えてください。

横尾 …はい。

森山 …

子供時代は、どんな子供でしたか。

主観的でも構いません。

どんな子供だと、自分で思いますか。

横尾 普通だったと思います。

森山 …

両親との関係はどうでしたか。

横尾 普通だったと思います。

森山 …

学校はどうでしたか。

どんな学生生活でしたか。

横尾 普通だったと思います。

森山 学校は好きでしたか。

横尾 普通でした。

先生。

森山 …

横尾 僕は、狂ってますか。

森山 …

わかりません。

今言えるのは、精神疾患である可能性は、あるかもしれないということです。

横尾 …

森山 …

横尾 解離性同一性障害って言うんですよね。

森山 …

横尾 多重人格。

森山 …

横尾 調べたことがあるんです。

森山 そういう自覚があるんですか。

横尾 わかりません。

森山 横尾さんの中に、違う人格の誰かが存在するんですか。

横尾 わからないんです。

ただ時々、生活の中で、記憶のない時間が存在する時があったので。

森山 それは、どういう時に認識したんですか。

横尾 気付いたら、部屋が、泥棒が入ったかのように、滅茶苦茶になっていたことがありました。

その日は、会社も休みだったし、ひどく疲れていて、僕は一切外出してませんでした。ですが、気付いたら。

森山 その間の記憶はないんですか。

横尾 ……はい。

森山 そういったことが、何度もあるんですか。

横尾 ……何度か。

森山 ……

横尾 ……

森山 解離性同一性障害は、心因性の障害で、そのほとんどは、幼児期から児童期における、強いストレスを受けている場合が多いとされています。

ストレスの要因としては、親や周囲からの暴力や、精神支配という、児童虐待や、学校や兄弟間のいじめが挙げられます。

横尾 ……

森山 横尾さんは、さっき、私の質問に対して、両親との関係や、学校についてです。「普通」と答えていました。

横尾 ……はい。

森山 実際に普通だったのかもしれませんが、私には、「答えたくない。」と言っているように聞こえました。触れて欲しくない。という雰囲気を感じました。

横尾 ……

森山 裁判での記憶はありますか。

横尾 ……はい。

森山 横尾さんは、裁判の時、ずっと黙秘していたそうですね。

横尾 ……はい。

考えていたんです。

森山 被告人席に座っているときに、突如として、発言したことは、覚えていますか。

横尾 ……はい。

森山 もし、横尾さんが、解離性同一性障害だったとして、あの発言は、交代人格が喋っていたということですか。

横尾 いえ。

森山 横尾さんが喋っていたんですか。

横尾 ……

はい。僕が喋っていました。

でも、

あいつが、俺にずっと話しかけてきていました。

自分で喋っていないながら、自分の意志ではない。

そんな感じでした。

森山 ……

横尾 ……

森山 さっき言ったように、解離性同一性障害は、幼児期から児童期における、強いストレスを

受けている場合が多いとされています。
少しずつでも、横尾さんのことを教えてください。
話してください。
それがきつと、横尾さんの問題を、解決してくれると思います。

横尾

::

照明、ゆつくりと暗転

3

舞台上、机と椅子の角度が変わっている
舞台前と舞台奥に椅子が来るような配置

舞台前方の椅子に、石井が座っている
石井、鼻歌

照明、うつすらと

横尾、舞台奥から登場。

石井、鼻歌、アウト

横尾、舞台後方の椅子に座る

照明、二人の狙い

6

石井 久しぶりな感じだな。

横尾 ::はい。

石井 元気か。

横尾 ::はい。

石井 留置所より良いだろ。

穏やかな一日だ。

横尾 ::はい。

石井 あ、差し入れ持ってくれば良かったな。

横尾 いや。

石井 何か欲しい物あるか。

横尾 大丈夫です。

石井 ::

毎日、何してんだよ。

横尾 ::何も。

色々なことを考えながら、特に何も。

石井 ::

傍聴席に、俺がいたの、知ってたか。

横尾 そうなんですか。
知りませんでした。
石井 そうか。
目が合った様な、気がしたんだけどな。
俺の気のせいかな。
横尾 わかりませんでした。
当たり前ですが、緊張してたもので。
石井 緊張ね。
横尾 はい。
石井 まあ、そりやそうだよな。
横尾 はい。
石井 ∴
横尾 ∴
石井 でも、まあ、俺には、そうは見えなかったよ。
横尾 ∴
石井 緊張してる様には、全然見えなかったよ。
横尾 ∴
石井 しかしあれだな。
色んなことができんだな。
横尾 何がですか。
石井 ∴
横尾 驚いたよ。
石井 大した演技力だな。

石井、突然、ゆつくりとした、横尾を小馬鹿にするような、威圧するような拍手をする

石井 大したもんだ。
アカデミー賞もんだ。
横尾 ∴
石井 ま、俺にはアカデミー賞がどれ位のもんなのかは、わからないけどな。
迫真の演技だった。
熱演だったよ。
横尾 ∴
石井 演技の勉強とかしたことあるのか。
横尾 ∴無いですよ。
石井 そうなのか。
いや、本当、迫真の演技だったよ。
石井 ∴

横尾 わかつたんです。
僕は、やってません。

石井 ::

横尾 本当です。
僕はやってないんです。

石井 机を思いつきり叩く

横尾 ::

石井 お前がやったんだ。

横尾 ::

石井 お前が殺したんだよ。

横尾 ::

僕じゃ (ありません。)

石井 お前だよ。

横尾 ::

石井 精神科の先生騙して、逃げ切るつもりか。

横尾 ::まさか。

何言ってるんですか。

石井 ::

横尾 ::

石井 何考えてる。

横尾 何がですか。

石井 お前は、頭が良い男だ。

横尾 そんなことないですよ。

石井 何を考えてる。

横尾 何も考えてないですよ。

石井 ::

横尾 ::

石井 捕まった時、一旦すべてを諦めたはずだ。

違つか。

横尾 驚いただけです。

石井 しかし、ある瞬間から、何かを考え始めた。

違つか。

横尾 何も考えてませんよ。

石井 その瞬間から、お前は、今の計画を始めた。

違つか。

横尾 何ですか、計画って。

石井 ::

横尾 ::

石井 刑法第39条。
横尾 ::
石井 心神喪失者の行為は、罰しない。
心身衰弱者の行為は、その刑を軽減する。
横尾 ::
石井 解離性同一性障害。
交代人格による行為のため、責任能力がない。
横尾 ::
石井 そういうことか。
横尾 何を言ってるんですか。
石井 ::
横尾 ::
石井 逃がさねえよ。
横尾 逃げるつもりはありませんよ。
石井 ::
横尾 ::
石井 動機は何だ。
横尾 取り調べは、終わったはずですよ。
石井 ::
横尾 ::
石井 絶対に辿り着いてやる。
横尾 後悔しますよ。
石井 どういう意味だ。
横尾 刑事さん。
石井 どういう意味だつて、聞いてんだよ。
横尾 ::
石井 ::
横尾 何かあるんですか。
石井 ::
横尾 殺された人たちと。
石井 ::
横尾 普段からどうかかわりませんが、あなたは、取り調べの時から、僕に対する執着が強かつた。
違いますか。
石井 いつも通りだよ。
横尾 他の刑事さんとは違う、何かを感じました。
私怨のようなものを。
違いますか。
石井 いつも通りだよ。
横尾 殺せるなら、僕を殺したい。

違いますか。
石井 犯罪者は、全員殺したいよ。
横尾 僕はまだ、犯罪者じゃありませんよ。
石井 ∴
横尾 ∴
石井 逃げられると思うなよ。
横尾 言っただじゃないですか。
そんなことは、思つてませんよ。
石井 ∴
横尾 ∴
石井 絶対的なものを、掴んでやるよ。
横尾 もう良いですか。
石井 絶対に逃げられない様なやつをな。
横尾 ∴

横尾、立ち上がり、静かに退場

照明、2人の狙いアウト
石井、鼻歌

照明、ゆっくりと暗転
音楽

4

舞台上、シーン2と逆の配置に
下手側の椅子に森山、上手側の椅子に横尾が座っている

照明、2人の狙い
音楽、F.O.

森山、神経質そうに、音を立てて、何かを書いている
顔を上げて

森山 お疲れさまです。
疲れてませんか。
横尾 大丈夫です。
森山 今日は、この辺で。
横尾 はい。
森山 ∴

横尾 　　：
森山 横尾さん。
横尾 　　：
先生。
森山 　　はい。
横尾 　　：
森山 　　何ですか。
横尾 　　：聞きましたか。
森山 　　：
はい。
拘置所内で、交代人格の人が現れたそうですね。
横尾 　　はい。
森山 　　その時の記憶はありますか。
横尾 　　：少しですが。
森山 　　昼に刑事さんが、会いに行かれたそうですね。
横尾 　　：はい。
森山 　　それが、ストレス要因だったのかもしれないね。
横尾 　　：
森山 　　：
横尾 　　興味深いですか。
森山 　　：
そうですね。
失礼だとは思いますが、興味がないと言えば、嘘になります。
横尾 　　：
僕の中から、声が聞こえてきました。
森山 　　：
一般に、精神分裂症の人の幻聴は、外から聞こえると言いますが、
多重人格者の人の幻聴は、中から聞こえると言われていました。
おそらく、横尾さんの中にある、交代人格の声が聞こえたんでしょう。
横尾 　　：
森山 　　それは、どんな感じでしたか。
横尾 　　どんな感じ。
森山 　　命令口調だったり、静かですが、高圧的な感じだったり、大声で、暴力的だったり、
横尾 　　：
森山 　　：
横尾 　　酷く暴力的で、僕を責めていたように、記憶しています。
森山 　　：
どんなことを、言われましたか。
横尾 　　なぜ認めない。
お前であろうと、俺であろうと、

森山 お前が死なない限り、何も終わらないんだ。つて。
：
横尾 僕は、やめる。やめる。と言っていたと思います。
でも、僕の中の声は、僕の言葉をかき消すように、どんどん大きく、暴力的になり、
僕は、僕は、：
森山 ：
横尾 ：
森山 その後の記憶はないんですね。
横尾 ；はい。
先生。
森山 なんですか。
横尾 幻聴って言いましたよね。
それは、やはり、実際には存在しないということですか。
僕の勝手な思い込みということですか。
森山 ；
横尾 それは、誰にも信じてもらえないということですか。
僕の話は、誰にも信じてもらえないんですか。
いるんです。
本当なんです。
あいつはいるんです。
僕の中にいるんです。
僕に話しかけてくるんです。
話しかけるんじゃない。
一方的に、ただ一方的に、
罵声を浴びせるんです。
僕に罵声を浴びせて、僕を追い払おうとするんです。
本当なんです。
：
本当なんですよ。
森山 ；
横尾 どうやったら、他の人に聞かせることができるんですか。
どうやったら、僕の話をしてもらえますか。
幻聴なんですか。
それは、嘘つてことですか。
俺が言ってるのは、嘘なんですか。
森山 ；
人が発する声は、音です。
それは、空気の振動が伝わっているものです。
横尾さんが聞いた声には、空気の振動は、ないと思います。
ですから、それは、声ではない。としか、言えません。

空気の振動がない声だとすれば、
それはやはり、幻聴というしかありません。

横尾

∴

森山

ですが、だからといって、横尾さんが
何も聞いてない。というわけではない。
少なくとも、私は、そう思っています。

横尾

∴

森山

∴

横尾

先生は、僕のことを信じてくれるんですか。

森山

それはまだ、何とも言えません。

横尾

∴

森山

解離性同一性障害は、とても特殊な症例です。
簡単に判断するのは、とても危険なことです。
ですから、

横尾さんの話を、すべて否定しているわけじゃありませんし、
すべて、信用しているわけでもありません。
あくまでも、客観的に、

横尾

客観的。

森山

∴はい。

横尾

そうですね。

森山

はい。

横尾

∴

森山

聞いても良いですか。

横尾

何ですか。

森山

交代人格を認識したのは、いつ頃からですか。
以前、部屋が滅茶苦茶になっていたことがあると言っていました。
その頃は、既に認識していたんですか。

横尾

∴はい。

森山

いつ頃からですか。

横尾

確実に感じるようになったのは、大人になってからです。

森山

それは、何歳くらいですか。

横尾

社会人になってからです。

僕が就職した会社は、結構なブラック企業で、頑張っただけで、
ノルマが厳しくて、

森山

ですが、横尾さんは、その会社でも、トップクラスの成績をあげていましたね。

横尾

∴

森山

警察の方からいただいた、資料に書かれていました。

横尾

∴

はい。

確かに、会社では、トップクラスの成績を上げていました。

ですが、無理な仕事の仕方をしていただと思います。
徐々に、辛くなって。

森山 休職。

転職。

横尾 はい。

森山 その頃からですか。

横尾 はい。

休職中に、家で、寒きこんでいる時に、

もっと以前から、そうだったのかも知れませんが、あいつだつて、認識するようになったのは、その頃だったと思います。

森山 最初から、暴力的な罵声だったんですか。

横尾 記憶している範囲では、そうだったと思います。

ですから、家にも、気が休まることはありませんでした。

森山 ∴

横尾 そうこうしてる内に、気がついたら、部屋が滅茶苦茶になっていることがあつたりして。

森山 ∴

横尾 先生。

あいつが言うように、

僕が死ねば、すべてが終わるんでしょうか。

だったら僕は、死ぬべきなんじゃないか。

森山 ∴

横尾 先生。

森山 私は、横尾さんが解離性同一性障害であれば、その診断を裁判所に報告するだけです。

私ができることは、それだけです。

私が、横尾さんを、裁くことは、できません。

すみません。

∴

すみません。

横山、うなだれる

森山 今日、ここまでにしめよう。

照明、ゆっくと暗くなる

森山、立ち上がり、舞台後方に移動し

森山 終わりました。

森山、舞台後方で立ち尽くし、横尾を見守る

照明、暗転

音楽

照明、ゆつくりと、薄暗く

舞台上、堀が立っている

石井、登場

音楽 F.O.

石井 何ですか。

堀 座れよ。

石井 大丈夫です。

堀 ::

石井 ::

堀 座れつて。

石井 ::

話つて、何ですか。

俺らよつと、用があつて、早めにしてもらえると助かります。

堀 横尾だろ。

石井 ::

堀 座れつて。

石井 ::

堀、下手側の椅子に座る

石井は立ったまま

堀、タバコを吸う

堀 傍聴まで行つたんだつて。

石井 ::

堀 何かあんのか。

何でそんなに入れ込んでる。

石井 ::

堀 石井。

石井 ::

堀 ::

石井 ::

堀 石井。

石井 ::

堀 何でそんなに入れ込んでる。

石井 入れ込んでるように見えますか。

堀 ああ。

石井 ∴

堀さんはどう思いますか？

堀 何が。

石井 あいつは、馬鹿だと思いますか。

堀 思わない。

石井 俺もです。

むしろ、とてつもなく、頭が良いと思っています。

堀 ∴

石井 今回、捕まえることができたのは、奇跡的なくらいだと思います。

堀 確かにな。

実際問題、奇跡だと俺も思うよ。

10年前なら、絶対に捕まらなかっただろうな。

被害者との接点も、動機もまるでわからないしな。

石井 衝動的な殺人だと思いますか。

堀 そう判断せざる得ないだろう。

石井 ∴

堀 ∴

石井 納得できないんです。

堀さんも思うように、そんな頭の良い奴が、衝動的に人を殺すと思いますか。

堀 計画的だつて言うのか。

石井 証拠がほとんどないんですよ。

計画的じゃなければ、どこかで歪みが出ると思いませんか。

堀 ∴

だが、それを証明する、証拠もない。

石井 ∴はい。

堀 現状では、どうすることもできない。

石井 ∴はい。

堀 ∴

石井 ∴

堀 全部言えよ。

石井 ∴

裁判の時、

いや、思えば、取調べの時から、

あいつは、俺に何かサインの様なものを送っていたような気がするんです。

堀 サイン。

何の。

石井 わかりません。

堀 気のせいじゃないのか。

石井 裁判の話は聞きましたか。

堀 多重人格。
石井 ∴はい。
堀 本当なのか。
石井 どう思いますか。
堀 実際見てないからな。
何とも言えんな。
石井 ∴
目が合いました。
目が合ったんです。
いや、合ったんじゃない。
あいつは、違う人格を演じる前に、俺の方を見ました。
堀 ∴
気のせいじゃないのか。
石井 いえ。
絶対に、俺を見ました。
堀 ∴
何のために。
石井 分かりません。
ですが、あいつは、絶対に、俺を、意図的に見たんです。
そして、多重人格を演じたんです。
堀 ∴
石井 あいつは、解離性同一性障害、多重人格なんかじゃありません。
単なる、狂った人殺しです。
その狂った人殺しが、多重人格を装って、何かを企てるんです。
堀 ∴何を企てると思う。
石井 わかりません。
堀 無罪になって、まだまだ人を殺したいってことか。
石井 わかりません。
堀 お前は何を調べるんだよ。
石井 ∴
被害者との接点と、動機です。
堀 何か分かったのか。
石井 いえ。
堀 ∴
石井 ∴
もう良いですか。
堀 ちよつと待て。
石井 ∴
堀 横尾を逮捕するときに、俺もいたがる。
石井 ∴はい。

堀 裁判の話聞いて、思い出したんだ。
逮捕する時の、横尾の顔を。
俺たちが横尾を囲んだよな。

石井 はい。

堀 その後、横尾、俺たちの方を見て、笑っただろ。

石井 ∴はい。

堀 率直な俺の感想だけどな、
別人のような気がした。
∴
捕まえる前の人間と、違う人間だと思った。

石井 多重人格だと。

堀 わからない。
∴
でも、実際にあの時のことを思い出せば、その可能性もあるんじゃないかとも思う。
∴
お前は、あれも演技だって、あの時から既に始まってたっていうのか。

石井 俺はそう思ってます。

堀 ∴

石井 ∴

堀 じゃあ、何でお前なんだ。

石井 ∴

堀 自分にサインを送ってたって言ったよな。
裁判の時に、お前を見たって言ったよな。
何でお前なんだ。

石井 ∴
わかりません。

堀 ∴本当か。

石井 本当です。

堀 ∴

石井 ∴

堀 あいつが、お前が言うように、頭が良くて、狡猾な人間だとする。
そんな人間に、お前は選ばれた。
嫌な気がしないか。

石井 ∴

堀 俺はさ、何か、嫌な感じがするんだ。

石井 ∴

堀 お前は、何かに巧妙に導かれてる。
そうは思わないか。

石井 思いません。

堀 嫌な感じがするんだよ。

石井 ∴
大丈夫ですよ。
あいつは今、拘置所にいるんですよ。
どうすることもできないじゃないですか。

堀 だと良いけどな。

石井 拘置所を抜け出して、何かするなんて、それこそ、俺を殺すなんて、できっこないでしょ。
そもそも、俺とあいつの接点もないんですよ。

堀 だが、何かあるんだろ。
そう思ってるんだろ。
それを調べてるんだろ。

石井 ∴
大丈夫ですよ。
もう良いですか。

石井、退場しようとする

堀 森本明美。

石井、立ち止まる
ゆつくりと堀の方を見る

堀 知ってるよな。

石井 被害者の一人です。

堀 ∴それ以上に、知ってるよな。

石井 堀さんも、人が悪いですね。

堀 みんな一緒だよ。
なかなか、全部を言わない。

石井 全部を言ったら、生きにくいからでしょ。

堀 何かあったのか。

石井 何もありませんよ。

堀 本当か。

石井 本当です。

堀 ∴
警官時代に、知り合っただけです。

∴
プライベートで、何度か食事をしたことがありました。

∴
旦那のことで、相談を受けました。

∴
とても良い娘でした。

::

笑顔が素敵でした。

::

好意を持っていました。

::

ですが、それだけです。

一方的な、彼女に伝えたこともない、ひっそりとした好意でした。

堀 彼女は、お前の気持ちに気付いてなかったのか。

石井 わかりません。

俺は、そういうことが得意じゃありませんし。

仮に、彼女が、俺の気持ちに気付いていたとしても、何もなかったでしょう。

そういうところも、好意を持ったところですから。

堀 私情は。

石井 無いと言ったら、嘘になりますね。

堀 石井。

俺はさ、嫌な感じがするんだよ。

石井 ::

話せることは、全部話しました。

もう良いですか。

堀 ::

照明、ゆつくりと暗くなる

石井、退場

暗転

6

音楽

舞台上、舞台上と舞台奥に椅子が来るような配置

舞台上の椅子に横尾、舞台後方の椅子に石井が座っている

照明、二人狙い

横尾、うなだれていて、小刻みに震えている

石井、その姿を冷たい視線で見ている

横尾 やめる。

うるさい。

やめる。

やめる。

うるさいんだよ。
お前には関係ない。
やめろ。やめろ。
∴

横尾、奇声を発する
音楽 C.O.

石井 ∴
横尾 ∴ 会いたかったんだろ、俺に。
石井 ∴
横尾 ∴
石井 見事なもんだな。
横尾 うるせえよ。
石井 それが交代人格か。
横尾 うるせえって。
石井 俺は絶対に（騙されない。）
横尾 うるせえ。
うるせえ。
うるせえんだよ。
石井 ∴
横尾 お前さ、うるせえんだよ。
石井 ∴
横尾 どうせ来るならよ、タバコくらい持って来いよ。
気利かねえな。
石井 ∴
横尾 どんだけ暇なんだよ。
ちよいちよいここ来て、あいつ追い詰めて。
仕事しろよ。
あいつはさ、臆病なんだよ。
だから、あんまり追い詰めんなよ。
かわいそうだろ。
石井 ∴
横尾 喋んな。
石井 ∴
横尾 お前から喋んな。
石井 ∴
石井 ∴
横尾 お前さ、何のために来てんだよ。
石井 お前が、ボロ出すのを待ってたんだよ。

横尾 出すものなんて、何もねえよ。

石井 ∴

横尾 ∴

石井 先生を騙すのは順調か。

横尾、笑う

横尾 先生を騙す。

先生は、騙せねえよ。

石井 どういうことだよ。

横尾、笑う

石井 どういうことだつて、聞いてんだよ。

横尾 ∴

今日はさ、お別れを言おうと思つて。

石井 ∴ 貴様。

横尾 賢いな。

お別れを言うつてのが、どういふことが、分かつたみたいだな。

石井 何を企んでる。

横尾 人聞きが悪いな。

何も企んでなんかねえよ。

∴

お別れを言うだけだよ。

石井 ∴

横尾 刑事さん。

人は死ねば終わると思ふか。

石井 何を企んでるつて聞いてんだよ。

横尾 俺が聞いてんだよ。

石井 ∴

横尾 人は死ねば終わると思ふか。

石井 ∴

横尾 終わるよ。

死んだら終わりだよ。

当たり前のことだよ。

石井 ∴

横尾 さて、ここで問題です。

俺は、人でしょうか。

石井 ∴

横尾 答えるよ。

石井 俺は、人でしょうか。
横尾 答えろ。
石井 お前は、横尾祐司だ。
横尾 ただ単に、お前は、横尾祐司だ。
石井 それ以外でも、なんでもない、横尾祐司だよ。
横尾 。。
石井 。。
横尾 だから、終わることは、絶対にない。
石井 お前は、そんな人間じゃない。
横尾 お前は、誰かを殺すことはあっても、自分で死ぬことはない。
横尾 。。
石井 そうだろ。
横尾 。。
石井 。。
横尾 刑事さん。
石井 ずっと思ってたんだけど、言つて良いか。
横尾 ああ。
石井 お前のこと、嫌いだわ。
横尾 殺してやりたいくらい、嫌いだわ。
石井 俺もだよ。
横尾 。。
石井 。。
横尾 でも残念だ。
石井 お別れだ。
横尾 待て。
石井 。。
横尾 。。
石井 さようなら。
横尾 待てこらう。
石井 。。
横尾 。。

横尾、元に戻る

石井、落ち着きを取り戻し、椅子に座りなおす

照明、舞台全体をうつすらと

横尾、何が起ったかわからない様子

ふらふらとしてから、少し距離を取って、立つ

僕は、
：
俺は、
俺は、
：
僕は、
俺は、
僕は、
俺は、
：
殺したんじゃない。

照明、暗転

7

舞台上、シーン2と同じ配置に
下手側の椅子に森山が座っている。
上手側に石井が立っている

音楽、F.O.

25

照明、舞台全体をうつすらと

森山 心理テストは、10種類のテストバッテリーを組みました。
テストバッテリーというのは、心理テストを複数組み合わせ、各テストの欠点を補完する
ためにおこなうものです。
知能検査の結果は、知能偏差値84と平均より高いです。
わざと手を抜いて、低い結果を出すことはできますが、どんなに頑張っても、能力以上の
結果を出すことはできません。
横尾さんは、誠実にテストに取り組んでいたと思います。

石井 ：
森山 ：
石井 率直に聞きます。
横尾祐司は、解離性同一性障害ですか。

森山 ：
まだ、なんとも言えません。

石井 ：
森山 刑事さんは、どう思いましたか。
石井 私は、横尾が誰であろうと構わないと思っています。

…
河野さとし、片岡ひとみ、小笠原しょうじ、森本明美、増井くにお。
横尾が、この5人を殺したことは変わりませんから。

森山 ……
石井 ……
森山 刑事さん、あなたは人を愛したことがありますか。
石井 ……
森山 例えば、その人が罪を犯したとしても、抗うことなく、受け止め、すべてを許すように、
その人が罪を犯そうとしたら、望むのなら、それを助ける。
そういう風に人を愛したことがありますか。

石井 ……
森山 ……
石井 どうしたんですか、突然。
森山 どうですか。
石井 ……どうでしょうね。
そんな風に誰かを愛したとして、それは幸せなことなのでしょうか。
森山 ……わかりません。
石井 先生の口から、そういう言葉が出てくるとは思いませんでした。
森山 おかしいですか。
石井 いえ。
森山 ……
石井 ……
森山 刑事さんは、もう、横尾祐司に会わない方が良いと思います。
石井 ……
どうしてですか。
森山 そんな気がします。
石井 ……
森山 ……
石井 入れ込み過ぎてるということですか。
森山 ……いえ。
石井 先輩にもたしなめられましたか。
森山 ……
石井 先生にも、そんな風に見えますか。
森山 殺された森本明美さんという方と、何かあったんですか。
石井 ……
森山 ……
石井 先輩から何か言われましたか。
森山 いえ。
その先輩という方とは、お会いしたこともありません。
石井 ……

森山 先ほど、被害者の方の名前を言ってる時に、
石井 ∴
森山 殺された順番ではなく、あえて、不規則に名前を言っような気がしました。
そして、森本明美さんの名前を言った時に、何かを隠すような、意図的な平坦さというか、
そういう風なものを感じました。
石井 ∴
森山 ∴
石井 先生は、どうして、精神科の医者になったんですか。
森山 横尾さんにも、同じ質問をされました。
どうしてでしょうか。
石井 どうしてでしょうかね。
でも、興味があります。
森山 ∴
学生時代、私は目立たないタイプでした。
目立たないタイプであると同時に、目立つことが嫌いでした。
ひっそりと学生時代を終えられれば、それでいいと思っていました。
ですが、高校の時、よくある話ですが、いじめが存在し、その対象が、私でした。
石井 ∴
森山 私が通っていた高校は、女子高だったのですが、
女子高のいじめ、想像つきますか。
石井 陰湿なんですか。
森山 はい。
とても陰湿なものでした。
石井 ∴
森山 刑事さんや横尾さんに、私がどう写っているかはわかりませんが、
私は、とても傷つき、
高校に通うことができなくなる寸前でした。
石井 ∴
森山 一人の勇気ある同級生が、私へのいじめを、学校側に暴露し、
私へのいじめは終わりました。
石井 先生へのいじめ。
森山 はい。
石井 ∴
森山 ∴
石井 ですが、いじめが終わったわけではない。
森山 はい。
石井 その勇気ある同級生が、
次の対象になった。
森山 はい。
石井 ∴

森山 　　：
石井 　　その同級生は。
森山 　　：
石井 　　：
森山 　　死にました。
石井 　　：
森山 　　心を病み。
　　　　　自ら命を絶つたんです。
石井 　　：
森山 　　：
石井 　　すみません。
　　　　　辛いことを思い出させてしまって。
森山 　　：いえ。
石井 　　：
　　　　　森本明美さんは、
森山 　　：
石井 　　私は、彼女のことを愛していました。
森山 　　：
石井 　　警官時代に、たまたま知り合つて、
　　　　　そのうち、プライベートでお茶をするくらいの中になりました。
　　　　　彼女は結婚をしていました。
　　　　　ですから、食事をしたりする位が、我々の限界でした。
　　　　　彼女は、旦那が浮気をしていて、とても悩んでいました。
　　　　　私には、彼女のような奥さんがいるのに、
　　　　　その旦那のことが理解できませんでした。
　　　　　口にすることはできませんでしたが、
　　　　　私は、その旦那と別れて、自分と一緒にいることを望みました。
森山 　　：
石井 　　：
森山 　　どうして、言つてあげなかつたんですか。
石井 　　どうしてでしょうね。
森山 　　森本明美さんは、刑事さんの気持ちを知っていたんですか。
石井 　　おそらく。
　　　　　わかつていたと思います。
森山 　　：
石井 　　彼女も、一旦は、旦那と別れる決意をしました。
　　　　　しかし、旦那が心を入れ替えると泣きついて、
　　　　　彼女は、旦那を許し、共に生きていくことを決めました。
森山 　　：
石井 　　そのことを私に告げた時の顔を、

忘れることができません。
森山 ……
石井 一生懸命の、一生懸命の、清々しきでした。
森山 ……
石井 ……
森山 やはり私は、刑事さんは、もう横尾祐司に念うべきではないと思います。
石井 ……そうはいきません。
森山 どのような結末になってもですか。
石井 ……
どんな結末になってもです。
森山 ……
石井 ……

照明、ゆつくりと暗転

8

舞台上、シーン4と同じ配置に
下手側の椅子に森山、上手側の椅子に横尾が座っている

照明、うつすらと

29

横尾 僕が傷つくことは、あいつも痛みを感じる事なんです。
森山 だから、あなたが傷つく前に、あなたを守ろうとするんですね。
横尾 そうだと思います。
森山 あいつに逆らうと、どうなるんですか。
横尾 記憶がなくなります。
そして、気づいたときには、目の前に、僕が絶望するような光景が待っています。
森山 それは、あなたに対する、あいつの罰ということですか。
横尾 そうだと思います。
森山 あなたは、あいつが行ったことを、まるで記憶してないんですか。
横尾 ……
森山 ……

少し長めの間

横尾 やめませんか。
森山 ……
横尾 外に、知らない車が停まってきました。
あの刑事が来てるんですよ。

おそらく、今の鑑定も、どこかで見ている。
違いますか。

森山 :: その通りです。

横尾 最初から気づいていましたよね。

森山 ::

横尾 俺が、演技してるって。

森山 :: はい。

ですが、あなたが、精神疾患の患者であることは、間違いないことだと思っています。

横尾 :: (微笑む)

森山 ::

横尾 先生。

森山 ::

横尾 俺は普通ですよ。

森山 ::

横尾 そして、狂っただけですよ、歯車が。

森山 ::

横尾 ::

森山 あなたは以前、仕事がきつくて、仕事を休職したと言いましたが、それは違いますね。

横尾 ::

森山 あなたは、とても意欲的に仕事に取り組んでいたし、充実もしていた。
違いますか。

横尾 ::

森山 あなたが休職する少し前に、あなたの恋人が自殺していますね。

横尾 ::

森山 あなたの歯車が狂い始めたのは、そのことが原因なんじゃないですか。

横尾 ::

どうすれば良かった。

そればかり考えてました。

気付いたら、カーテンの隙間から差し込む光が、朝を告げてました。

でも、だんだんそれすらどうでも良くなって、

何日、部屋でうずくまっていたのか、覚えていません。

どうすれば良かった。

ただそればかり考えていました。

森山 彼女と何があったんですか。

横尾 ::

許しただけですよ。

俺は、許しただけですよ。

森山 ::

横尾 先生。

森山 声が聞こえるんです。
わかりますか。
横尾 ∴わかります。
横尾 最初は音だった。
音が聞こえたんです。
ガラガラって言えば良いのかな。∴何かが壊れていく音。
何か壊れていつてるんです。
それで、俺は気付くんです。
それは音なんかじゃない。
声だって。
求めている声だったんです。
助けて。
助けて。
助けて。
殺してつて。

森山 ∴
横尾 先生。
森山 ∴
横尾 許した人の方が、辛いつて、おかしいと思いませんか。
許した俺のほうが、なぜこんなに苦しまなきゃいけない。

森山 ∴
横尾 だから俺は、俺と同じように苦しんでいた人たちを、救ってやったんです。
森山 あなたと、彼女の間に、何があったんですか。
彼女は、なぜ自殺に及んだんですか。
横尾 真面目な人でした。
どこにでもいるような、どこにでもあるくらいの真面目な人でした。
そう思っていました。
よくある話です。
職場の同僚と飲みに行つて、飲みすぎて、
過ちを犯してしまいました。
それだけのことです。

森山 あなたは、彼女を、∴殺したんですか。
横尾 俺が、殺してれば良かった。
その同僚を、俺が殺してれば良かった。
たとえ、自分の意志じゃなく、無理矢理だったとしても、
彼女は、自分を許せなかった。
自分を許せなかったんです。
だから、俺は、許したんです。
彼女のすべてを許したんです。
∴

俺がしたことは、それだけです。

森山
∴

横尾
みんなそうだった。

許して、苦しんだ。

だから、俺が、救ってやっただけです。

森山
∴

横尾
∴

横尾、突然立ち上がり、森山に詰め寄り、首を絞める

森山
∴

横尾
∴

森山
私を殺すんですか。

横尾
∴まさか。

先生、あんたは、最高の共犯者だよ。

森山
∴

横尾、森山から手を放す

石井、堀、急いだ様子で登場

森山
∴

石井
∴

堀
∴

横尾
やあ。

横尾、ゆつくりと自分の椅子に戻る

堀
大丈夫ですか。

森山
大丈夫です。

森山、元の位置に戻り、堀と石井、森山の後方に立つ

横尾
全部、聞いてたんだろ。

石井
∴

横尾
その先生はさ、凄だよ。

最初に目が合った瞬間から思ったよ。

人じゃないって。

森山
∴

石井
人じゃないのは、お前だよ。

横尾
∴

石井 お前は、狂ってるよ。
横尾 聞いてなかったのか。
狂ったのは、歯車だけだよ。
石井 ∴
横尾 刑事さん。
知りたがってたよな。
石井 ∴
横尾 動機。
石井 ∴
横尾 動機は、
望んでたからだよ。
そう望んでたから、殺してやったんだよ。
石井 そんなことはない。
横尾 ∴
石井 誰もそんなこと望んじやいなかった。
横尾 ∴

横尾、薄く笑う

横尾 先生。
森山 ∴
横尾 紙とペンを貸してくれるかな。

森山、机の上に置いてある、ノートとペンを横尾に渡そうとする

横尾、森山の腕を掴む

堀 横尾。

堀、横尾に詰め寄る

横尾、堀に掴みかかり、机に堀を打ちつける

堀、頭を強く打ち、倒れる。

石井 横尾。

横尾、悠然と立つ

森山、目の前の出来事に、呆然というか、追いついていないというか、立ち尽くす

石井、横尾を睨む

横尾 俺もあんなこと、望んじやいなかったよ。
愛し合っていたんだよ。

過去に何があろうと、愛し合っていたらと思っただよ。

森山
：
石井
どんな理由があっても、お前がしたことは、単なる人殺しだよ。

横尾
：
石井
：
横尾
すぐにわかったよ。

石井
：
横尾
石井さんだつて。

石井
：
横尾
まあ、気になって、あんたがどういう人かは調べてたからな。

石井
：
横尾
でも、あんたが俺を逮捕しに来たときは、驚いたよ。

石井
：
横尾
あ、石井さんだつて。

石井
：
横尾
森本明美が死んだのは、刑事さん、あんたのせいだよ。

石井
：
横尾
あんたが、強引にでも、あの女を自分のものにすれば良かったんだよ。

石井
：
横尾
聞いてただろ。
聞こえるんだつて。
声が聞こえるんだつて。

石井
：
横尾
あの女が、旦那を許して、どれだけ苦しんでたと思う。
その声が、俺を導いたんだよ。

石井
：
横尾
お前が、あの女を自分のものにしてれば、
あの女の声は、俺に届かなかつたんだよ。

石井
：
横尾
お前があの女を殺したんだよ。

石井、横尾を殴る

横尾、倒れる

石井、横尾に馬乗りになって、殴る

横尾、笑う。

横尾
お前があの女を殺したんだよ。

石井
うるさい。

横尾
俺じゃない、お前が殺したんだよ。

石井
うるさい。

横尾、笑う。

横尾 あの女の最後の言葉を教えてやるよ。

石井 ∷

横尾 石井さん。

石井 ∷

横尾、不敵な笑顔

石井 あゝ。

石井、横尾を殴る

照明、舞台全体、赤く

横尾、息絶えて、ぐったりする

石井、無言で横尾を殴り続ける

ある程度殴って、静止

堀、目を覚まし、状況を把握する

堀 何やってんだよ。

石井、お前何やってんだよ。

石井。

石井 ∷

石井、立ち上がる。二、三步後ずさりして、横尾から離れる

石井 声が聞こえた。

殺してくれって。

森山 刑事さんに言ってなかったことがあります。

私をいじめから救ってくれた同級生を、私は愛していました。

簡単な理由です。

彼女は、私の光だったんですから。

ですが、その光は、私のせいで、闇に落ちてしまいました。

私は、闇に寄り添うことを決めました。

彼女は、私たちがいじめた人たちを殺したいと言いました。

苦しめて、苦しめて、殺したいと言いました。

だから私は、私たちが一切手を汚さずに、彼女たちが苦しんで自殺するようにはしました。

それが、私が、精神科の医者になった理由です。

私の思惑通り、私たちがいじめた人たちは、全員苦しんで自殺してくれました。

ですが、私の光は、その闇に耐えられなかった。

罪の意識にさいなまれて、自ら、命を絶ったんです。

彼の目は、横尾さんの目は、

彼女の死ぬ直前の目と、

そっくりだったんです。

音楽

照明、ゆつくりと暗転

了